

令和5年度 第6回特別史跡新居関跡保存活用計画策定委員会議事録

- 1 日 時 令和5年12月26日（火） 午後1時30分～午後3時40分
- 2 場 所 湖西市役所 市長公室
- 3 出席者 委員 渡辺和敏委員 箱崎和久委員（オンライン）
寺田敏幸委員
石本東生委員 後藤建一委員
静岡県文化財課 大谷宏治
事務局 太田英明（産業部長）
白井保司（文化観光課長）
鈴木紀子（文化観光課 文化係長）
委託事業者 （有）ウッドサークル 中田英史
瀬口世津子

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴者 無

6 次 第

【開 会】

【産業部長あいさつ】

【議 題】

（1）第1章から第10章について

委員長：関所の松が松枯れによって伐採したとのことだが、今回の計画に対策は書かなくてもよいか。

市：計画には、植栽の方針について記載してある。南側は大松を除き伐採、北側は整備による植栽なので残置としている。今回枯れた松は、南側であるので、補植はしない。

委員長：最近気づいたが、P2「日本で唯一現存する関所」という言い方は正しくない。東北に藩により設置された関所で、建物が残っているところがある。過去に福井県の関所の復元に携わったこともある。正確には「江戸幕府が築いた関所」もしくは「主要街道に設置された関所」であれば問題はない。P59「本質的価値」、P89は主要街道としているので、そのままよい。1行目は書籍の引用なので、直さない。

委員：引用の「月間文化財」は「月刊」の誤り。

市：第5章の目標。磨き上げることで→磨き上げ、に修正する。

委員長：「～することで」という言い回しが多い。

ウッドサークル：第5章大綱・基本方針となっているが、第1節は目標となっている。

委員：大綱に揃えた方がよい。特別史跡新居関跡も不要。

第2節の文章が少ない。「特別史跡新居関跡について、上記第1節で掲げた大綱を実現するために、本計画における具体的な基本方針を以下のとり定める。」第1節が目標で、2節で目標を定めるとなっているので、特別史跡新居関跡を削り、基本方針を定めるに修正。

第1節 大綱

第2節 基本方針

目標の前を1行空けたほうがよい。

計画の肝なので、もう少しフォントを大きくできないか。

市：文字を大きくし、カラーにする。

委員長：P115第1節の下から3行目。「基本計画」とでてくるが、前章にはでてくるが、もう忘れていたので、名称を再掲してほしい。

委員：第4章の課題の書き方がネガティブ。（例：未策定→策定しなくてはいけない）時間が許す可能な限り、ポジティブイメージの文章にしてほしい。読むほうの印象も変わる。また、写真は見れば状態や様子が分かるものであるので、写真のキャプションは「～の様子、状況」などの文字は削る。

委員長：関所の現在の写真が、大きく載っていない。我々は見慣れていても、よその人にとっては違う。

市：表紙に載せる。

（レイアウト）

委員：図と絵図、絵画、図面などの番号記載表記が色々ある。統一をした方がよい。

ウッドサークル：図表一覧目次を載せようと思っていたが、煩雑なのでやめたい。

委員：図とはグラフ・写真・マップを含む。

委員長：すべて図でよい。

委員：表記は、章○-1でよい。表は別。

ウッドサークル：P48-50は枠で囲み、1つの図とする。

委員：それでよい。P46の図2-29のイメージにする。

ウッドサークル：P12.13は表扱いするか？

委員：これは指定告示で、表とは別。

ウッドサークル：P14は？

委員：図と表を上下逆にし、指定範囲図の中に凡例として表を載せる。

県：表の枠が揃っていないのが、気になる。縦横もバラバラ。

上詰めにする。版面をはみ出して格好が悪い。

委員：P57、62の表もずれている。版面をはみ出さないようにする。

県：縦のセンタリングをしているので、上部が1行空いている。

透かしてページを見るとずれているのが分かる。

P105表頭があっていない。

委員：P101下にスペースもあるので、行間を調整して版面を整える。

表が次のページにまたがるところは、キャプションを振り直す。

県：県積算表では表6-5-2と枝番をつける。

表の中の文字サイズ・フォントがバラバラ。

委員：表の文字サイズを決めるのが原則。

委員：P99とP100表のフォントが違う。統一感がない。

P98のレイアウトが、右に寄っている。凡例は横長にして下部でよい。

委員長：P13の表の下が空いている。面積の3桁のカンマがない。

m²は、上記の表が平方メートルとあるが、統一しなくてよいか。

委員：上記の表は、官報で縦書きのためであるので、横書きのものはm²でよい。

市：あとで、すべてのm²を点検する。

委員長：P15の3節の前に1行あける。

委員：図表下は1行あけて、文章を始める。キャプションは行間を空けない。P15.P13.P22.P27.P29は2行分空いている。

指摘ページ：P99フォント、P98左の余白、P27フォントサイズ、

委員：章、項、節のレイアウト配置が統一されていない。

県：行政計画なので、公文書として、文書規程に基づき配置するとよい。県の大綱をそのように作成した。文末で「()。 」と「。()」が混在している。→「()。 」に統一。

「出来る」は「できる」にする。

委員長：P23、3行目「設置場所の移転」。災害年表の字句修正。

委員長：資料編は、資料1とあるが？

市：1しかないなので、資料に修正する。

委員：資料編のページは1ページから始める。

県：1ページの冒頭に「1. 関所建物（面番所）部位の設置一覧表」のタイトルをいれる。

委員長：1行目「図示する」→示すに修正。

県：出版元は湖西市ではないか。

市：表紙と奥書を修正する。「湖西市教育委員会」

県：P107の本文内容と、図の表があっていない。

自動火災報知機から通報→警備会社などの表になる。

ウッドサークル：b 火災防ぎょ体制のタイトルは、図6-6のタイトル。位置がずれている。

委員長：移報は「通報」にする。

県：P108 耐震診断の表中、文字を分断している。

ウッドサークル：フローチャートになっているので、文化庁建造物の表にあわせて、線だけにして凡例で①②③とする。

県：P116 整備は現状に戻すのが原則なので、維持管理に要するコストを大々的に書いてしまうのは再検討。

市：箱崎委員にも指摘されたので、再検討する。

県：整備で「別途造ったもの」と書けばいいのではないか。

委員：再整備は、まだまだ指針がでていないので、勇み足になりそう。幅広くとらえられる言い回しにしてほしい。

県：文章の中で、「検討する」という言い回しが多いが「協議する」で止めておいたほうがよい。例：P109（文化財課と適切な対応について協議する）「検討する」で終わってしまうとネガティブな印象。

県：P128経過観察表が、P126の実施計画の確認できるか対応関係を確認。○も、後期事業が前期に○が打ってあるなど、一度点検してほしい。

委員：現状と課題、方針が対応しているならば、目次の第2節(2)と第7

章（２）が対応していない。

市：確認する。

（２）今後のスケジュール

委員長：最終的な修正はいつまでか？

市：誤字程度は、印刷製本にかける４月までは修正できるが、内容に関してはパブコメ前の２月中旬までをお願いしたい。

委員長：編集レイアウトはだれがやるのか？

市：ウッドサークルに編集委託している。

委員長：２月までに直せるのか。

ウッドサークル：直します。

委員：修正の際に手入力すると誤植につながる。

県：エクセルで、サイズを決めて（１６センチのまま、フォントサイズも決める）PDFにするか、インデザイン上で表を作るか。

ウッドサークル：P27の文化財一覧表をどのようにしたらよいか。

委員：論文集では、１ページにフォントを落として納めるか、フォントを優先するか編集ルールを決めておく。

委員：文化財一覧は、所在地は不要。指定区分も指定不要。指定年月日も平成をHにするなど、工夫をして、原則フォント優先したらどうか。

委員：P28の下段に余白があるので２行にするなど工夫できそう。

フォント優先だと、表の文量が多くなる。表は一覧で見ることができるのが、表の良さ。ページ優先でもいいかと思う。

県：表題はRとは書かないのでは？令和表記。

市：最終レイアウトを再度郵送する。

（終了）